

平成26年度新産業集積創出基盤構築支援事業  
(中部航空宇宙産業新クラスター形成支援事業)

## 平成26年度 航空機関連技術動向調査事業 仕様書

### 1. 事業目的

中部地域は、我が国最大の大手機体メーカー3社が集積する日本随一の航空機製造拠点であり、また日本で唯一の民間航空機のインテグレーターである三菱航空機が日本初の民間ジェット旅客機「MRJ」の開発・生産に取り組んでいる地域でもある。

政府の日本再興戦略における日本再興戦略プランに基づき、自治体、産業界及び有識者で構成される「東海産業競争力協議会」が2013年11月に設置された。その協議会で検討された結果、この地域の戦略産業の1つとして航空機産業が選ばれている。

選定された航空機産業については、拡大する世界的な民間航空機需要を取り込み、この地域の航空機産業を自動車に続く次世代産業としていくために、“研究開発から設計・開発、製造・販売、保守管理までの一貫体制を構築し、アジア等新興国の追随を許さない、欧米先進地域と肩を並べる日本で唯一の集積地「アジアNo.1クラスター」を形成する”という大目標・方向性を掲げている。この「東海産業競争力協議会報告書 TOKAI VISION」の取組方針及び「次世代航空宇宙関連産業国際競争力強化支援事業（平成24～25年度経済産業省補助事業）」における検討内容等、これまでに当センターが実施した事業成果を踏まえ、本事業において、いくつかのテーマと目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいくことにしているが、このテーマの一つに「新技術の創出」を挙げている。ここでは、海外メーカーとのグローバルな競争に打ち勝ち、次世代航空機の受注の獲得を目指し、中部地域で強化すべき技術の方向性を見いだすことを狙っており、そのためのベースデータとすべく海外航空機関連企業・研究機関等の技術動向調査を行う。

### 2. 事業内容

低炭素社会への急激な転換、中国、アジア新興国の台頭など、航空機産業の情勢が大きく変化している中で、この地域が優位な地位を確保するためには、一定の国際的評価を受けるまでに成長した構造体の設計・製造技術の維持・発展とともに、今後は新たに、装備システム/装備品に関わる新技術の創出が必須である。この装備システム/装備品は、複雑で多種類の機能を発揮する能動的な製品であることから、その付加価値は極めて高く、広範囲に亘り高度な技術力を有する我が国の工業界が挑戦していくべき領域である。

以上の観点から、国内装備品メーカーによる世界の装備品市場の開拓促進の支援に向けて、欧米の機体メーカー及び装備品メーカー等が次世代機に適用すべきと想定している装備システム/装備品に関連する先進的な技術について、その研究開発の動向を調査する。

### 3. 業務内容

#### (1) 文献等調査業務

請負者の知見及び文献等の活用、要すれば出張ベースによる情報収集活動を通じて、欧米の航空機産業先進国における技術動向について調査し、調査結果を取りまとめる。

#### (2) 報告書の作成

調査結果、成果等をまとめた事業報告書の作成。

### 4. 事業実施期間

契約締結の日から平成27年3月2日（月）までとする。

### 5. 納入物

本事業全体の事業内容、実施概要及び成果に関する調査報告書を作成し、納入する。

電子媒体：CD-ROM 1枚

紙媒体：2部（カラー；1部、モノクロ；1部）

### 6. その他

業務の遂行において疑義が生じた場合は、（一社）中部航空宇宙産業技術センターと協議し、その指示に従うものとする。